

地域畜産振興部門

青森県南津軽郡藤崎町 常盤村養鶏農業協同組合

(代表：石澤 善成)

消費者の求める卵・農産物を作り50年 —本物にこだわり地域農業と歩んで来た養鶏の先駆者—



常盤村養鶏農業協同組合のみなさん

青森県藤崎町は、県の中南地域にあり、平成17年に旧藤崎町と旧常盤村が合併して誕生した町で、リンゴの主力品種である「ふじ」の発祥地でもある。気候は、津軽平野の中では比較的温暖で、農業に適した肥沃な土壌に恵まれている。

常盤村養鶏農協が発足した昭和35年当時、当地域では産業としての養鶏はなく、新鮮で手軽に入手できる卵の生産と併せ、周年雇用や堆肥利用による地域振興も視野に多くの生産者が参加できる組織として発足した。

特徴的な活動としては、これまでの養鶏農協事業は、一貫して「地域における農業振興や生産者への経営・技術支援」の観点から展開されてきており、具体的には以下の点があげられる。①青森県が鶏卵の主要な生産地に成長する過程において、養鶏生産者への技術・経営支援を行ってきた。②旧「常盤村」(現「藤崎町」)はそのほとんどが水田地帯で、昭和40年代に始まる米の生産調整は村に大きな打撃を与えたが、養鶏農協は鶏ふん堆肥の活用を勧め、自らの畑で栽培の実践を行うとともにその技術の普及に努め、ニンニクやアスパラ、トマト等の主産地形成に果たしてきた。③酪農経営が行き詰まった農事組合法人を養豚生産に切り替えのうえ養鶏農協のグループに組み入れたことや、荷重な労働によりリンゴの生産が継続不可能になった生産者に労力軽減栽培を勧め継続を促ったこと等、就労の確保にも尽力してきた。農業以外に産業の少ない地域において、農業の継続対策は地域経済にとっての意義は大きい。

第2に「自然の味を求めた生産のこだわり」である。養鶏農協は当初から消費者の意見取り入れ、本物にこだわってきた。「良い卵は病気に強い鶏から生まれ、良い空気、良い水、良い餌にある」という基本理念から、①病気に強い鶏の品種を選び、②丈夫な雛を育てるため育雛場を設置し、③飲水はBMW水(生物活性水)を用い、④飼料はポストハーベストフリー、NON-GMOの主原料を使った指定配合とし、近年では転作田を活用した飼料イネの生産にも取り組んでいる。

また、養豚も豚舎の衛生管理や飼料には細心の注意を払い自ら加工工場を設置し、無添加のハム・ソーセージの生産等安心な畜産物の供給を行っている。

第3に消費者との交流活動があげられる。養鶏農協の基本理念に「食べる人が喜んでくれる食べ物を生産することが生産者の喜びである」とし、これまで、県内外の生協と交流を深めながら産直取引を行ってきた。

- ▼鶏舎の外観
寒冷地にも対応している畜舎構造



- ▼採卵鶏の平飼い
「良い空気、良い水、良い餌」にこだわっている



- ▼堆肥舎の内部
資源循環型農業の基盤を支える良質な堆肥



- ▼（農）八峰園で収穫した「葉とらずリンゴ」
葉型が付き見栄えは良くないが、味は良い(左)



- ▼（農）八峰園で作付けするトウモロコシ畑
有機認証を受けている圃場



- ▼食彩ときわ館（藤崎町）
堆肥の施用により、味の良い農産物を販売

